

河川環境管理財団ニュース

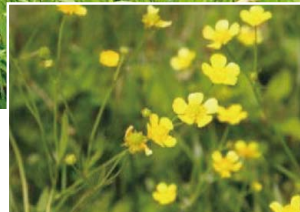
News Letter from Foundation of River & Watershed Environment Management



センニンソウ



タツナミソウ



ウmanoアシガタ



レンリソウ

【鬼怒川の堤防（栃木県宇都宮市）】

写真上は、生物多様性を持つ堤防植生の例です。チガヤを中心に、日本古来より生育する様々な在来植物が自生しています。

河川環境管理財団では、現在の堤防植生の管理水準（除草回数・時期）を維持しつつ、河川堤防に生物多様性を創出する取り組みとして、「河川堤防及び周辺域における生態緑化技術の開発に関する研究会（EFGT 研究会）」を行っています（詳細は特集記事に紹介）。

ニュースの項目

【巻頭言】…………… P2

国土交通省 河川環境課長 中嶋 章雅

【特集 生物多様性の豊かな堤防植生を創出させる研究（「EFGT」研究会）の取り組み】… P3

1. 経緯
2. 研究目的
3. 研究体制
4. 研究内容
5. 基盤工法・資材選定実証実験
6. 今後の展開

【報告事項 1 調査研究等】…………… P5

1. 「第 13 回 河川環境研究会」の開催
2. 「河川環境管理財団研究発表会」の開催
3. 「河川塾」の紹介
4. 「研究アドバイザー委員会」の研究テーマ決定
5. 国土交通省地方整備局優良工事等表彰

【報告事項 2 河川環境学習関係】…………… P6

1. 「世界子ども水フォーラム・フォローアップ in 北海道 2010」を開催
2. 「水に関する環境教育プログラム指導者研究会」の開催報告
3. 「全国水難事故マップ」を更新
4. 「川に学ぶ体験活動協議会（RAC）初級指導者（リーダー）養成講座」を開催
5. 水辺共生体験館「川とカップの探検ツアー 2010 夏」

【公園・施設管理コーナー】…………… P9

1. 第 91 回 淀川の自然を楽しむ会（干潟を楽しもう）
2. 淀川三川ふれあい交流 第 2 回七夕まつり

【河川整備基金コーナー】…………… P10

1. 「平成 23 年度河川整備基金助成事業」の募集

2. 平成 22 年度河川技術研修会の実施

【お知らせ・募集】…………… P10

1. (財) 河川環境管理財団地方事務所研究発表会の開催案内
2. 「第 17 回河川整備基金助成事業成果発表会」のお知らせ
3. 「川に学ぶ全国事例発表会」の開催
4. 「プロジェクト WET ファシリテーター講習会」の開催予定
5. 平成 22 年度「川に学ぶ体験活動全国大会」の開催予定
6. 川を活かした体験型学習プログラム集（仮称）出版予定
7. 「水辺の安全ハンドブック（改訂版）」出版予定

巻頭言

～ 水質 ～

かつて昭和 40 年代に見られた悪臭の漂う汚い河川は、今ではあまり見られなくなりました。例えばかつて多摩川は洗剤の泡の浮く汚濁河川でしたが、排水規制、下水道の整備、河川の浄化事業などにより、現在はアユの遡上も見られるきれいな川として市民の憩いの場になっています。

国土交通省による全国一級河川の水質調査結果では、BOD 値や COD 値の環境基準の達成率は年々上昇し、直近では9割に達しています。その一方で、湖沼等の閉鎖性水域では、未だ環境基準の達成率は約5割と低く、また、都市部を流れる河川の一部でも、依然として水質改善の必要性の高い箇所もあります。

このような中、水質の評価においては、従来の有機物汚濁指標である BOD 等に表れる数字が住民の水質への感覚やニーズと本当に合致しているのか、より住民にわかりやすい指標はないか、住民と連携した水質管理ができないかなどの観点より、平成 17 年に「今後の水質評価指標について(案)」をとりまとめ、新たな水質指標に基づく調査を全国の一級河川で実施しているところです。この指標は、「河川と人との豊かなふれあい」、「豊かな生態系」、「利用しやすい水質」の視点別に、水質の指標のランクを設定して評価するもので、住民の方々との協働により、例えば感覚的な評価指標であるゴミの量、川底の感触、水の臭いなどについても調査、評価を行うものです。

普及啓発という観点から、調査結果のとりまとめ方や表現方法にも工夫が必要です。平成 21 年の調査結果は、人と河川の触れあいの観点で良好だった地点を「泳ぎたいと思うきれいな川」としてマップ化して公表しています。なお、全国で約 17%が水質面で泳ぎたいと思うきれいな川と判定されました。

調査結果を踏まえ、評価方法や評価ランクの見直

しや地域特性を考慮した項目の追加などを盛り込んだ改訂を平成 21 年に行うとともに、同様の観点から、平成 22 年に湖沼版も作成し調査を行っています。このような水質指標の調査結果



から見えてくるその流域の水質の課題に対しては、その要因の分析とそれに基づく対策について、流域の関係者がいっしょに考えていくことが求められます。

その他、最近の水質に関する話題としては、気候変動による影響があげられます。一部の河川・湖沼において水温が上昇傾向にあることが示されており、多摩川への熱帯魚の侵入等の事例もあります。今後は、各種データを分析し、都市部からの温排水など人為的な影響も考慮しつつ、気候変動が河川・湖沼の水環境へ与える影響を把握するとともに、適応策についても考えていく必要があるでしょう。長期的な視点に立ち、より効率的な方法で気候変動等による影響をモニタリングする必要があります。

また、暮らしの中で使われる医薬品等の化学物質が多様化する中、それが水環境へ与える影響については未知な部分が多いのが現状であります。

さらに、従来から行っている水質の常時監視についても、近年の厳しい予算状況も踏まえ、調査自体の効率化、重点化が必要です。これまでの調査結果を踏まえ、調査の地点や項目等についても見直すべきところは見直していきます。

今後とも、皆様の御支援、御協力をよろしく申し上げます。

国土交通省 河川局河川環境課長
なかじま あきまさ
中嶋 章雅

特集

生物多様性の豊かな堤防植生を創出させる研究（「EFGT」研究会）の取り組み

1. 経緯

堤防は土でできており、降雨や洪水による浸食を防ぐために、表面に張芝を行うことで耐浸食力を確保しています。しかし、芝を維持するためには年に5回程度の除草が必要であり維持管理コストが高いことや、外来種の侵入による花粉症の発生等様々な諸問題が起り、その対策が求められてきました。

（財）河川環境管理財団では、コスト縮減や問題植物への対応という観点から、植生タイプ別の機能、除草回数等の管理手法と維持される植生タイプの関連性、花粉症の原因植物となるイネ科外来牧草の特性と除草時期などの堤防植生に関する研究の取り組みを行ってきました。更に、堤防植生の施工及び維持管理コスト縮減の観点から、シバに代わる堤防植生の切り札として、日本古来より生育するチガヤに着目し、その導入及び維持管理方法について研究を行った結果、除草回数・時期を工夫することにより、チガヤは堤防植生に求められる治水機能、環境機能を満たしながら、外来牧草の生育及び拡大を防除できることが明らかとなりました。

一方、近年、生物多様性の減少を受け、「生物多様性基本法」が制定されるなど、日本古来の多様な植生を保全や復元する新たな要請が高まってきています。

そこで、平成 21 年度より、これまでの河川堤防におけるチガヤに関する研究を、幅広い研究者の協力を得て「チガヤ群落とその多様性に関する研究」（河川に日本の原風景を復元するプロジェクト）として発展させることとし、河川堤防等にチガヤと多様な在来植物を生育させる生態緑化技術（Eco-Friendly Green Technology）の開発に向けて、「河川堤防及び周辺域における生態緑化技術の開発に関する研究」を実施しています。

2. 研究目的

日本の河川堤防に多く見られるチガヤ群落は、年2回刈り取りという適度な攪乱が加えられることによって、外来牧草の生育を抑制しながら、ノアザミ、スミレ、アマナ、クサボケワレモコウ等の日本古来の在来植物を保全させられることが、これまでの学術研究等によって明らかとなっています。そのため、現在の堤防植生管理下においても、チガヤ群落は、侵食作用から河川堤防を守るといふ治水機能を果たしながら、生物多様性に富んだ

緑地空間を創出・維持し得る可能性が見出されています。

本研究は、河川堤防において耐侵食性に優れるチガヤを主体とした在来植物を優占させ、生物多様性を有する緑地空間を効率的に創出する技術開発を行うことを目的とします。

3. 研究体制

本研究は、（財）河川環境管理財団 研究第四部が事務局となって『EFGT 研究会』を組織し、東京農業大学・根本正之教授を始めとする学識者等の参画を得ながら実施します。

4. 研究内容

生態緑化技術の開発に向けた研究項目を以下に示すとともに、④ EFG 植生工（仮称）の試作・実証実験の一環として、基盤工法・資材選定の実証実験を7月より開始したので紹介致します。

研究項目

- ①モデル植生調査（生態系調査、堤防機能調査、小動物調査）
- ②在来植物栽培試験（発芽特性・耐陰性・耐刈取性試験など）
- ③全国の堤防植生実態調査
- ④ EFG 植生工（仮称）の試作・実証実験（基盤工法・資材選定実験、多様性導入実験、実証実験）
- ⑤生態緑化技術の手引書作成

5. 基盤工法・資材選定実証実験

本実験は、チガヤの植栽に関する各種の工法・資材とその施工時期がチガヤの生育に及ぼす影響を把握するとともに、生態緑化技術の基盤となる工法・資材の特性を把握することを目的としています。

実験地は、実際の堤防と同様の地盤材料と強度および自然環境状況を有している堤防に隣接した箇所で行っています。

本実験では、1.5m × 1.5m のコドラードを整備し、①種子散布工（写真1）、②苗吹付工（写真2）、③植生マット工（写真3）、④植生無施工の各植生工を7月、9月、3月（予定）に時期を分けて植栽します。

植栽後の観測は、河川堤防と同様の維持管理を行っていくことで、現河川堤防の生育条件との整合を図り、約3年間、チガヤの生育状況を観測する予定としています。

なお、現状におけるチガヤの生育状況は工法・資材によって異なりますが、当初定着が心配された種子散布工についても着実な生育が見られています（詳細は今後報告致します）。

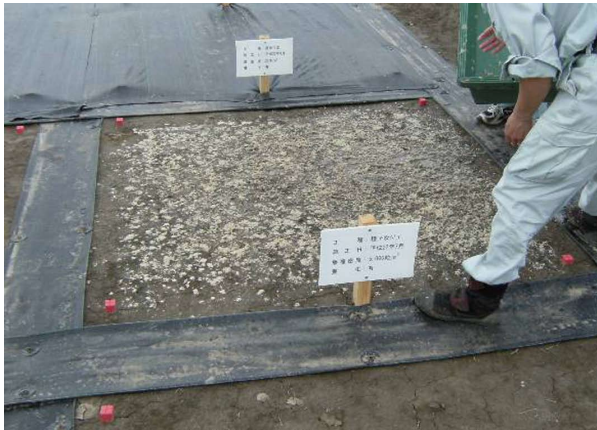


写真1 種子散布工



写真2 苗吹付工



写真3 植生マット工

6. 今後の展開

本研究の実施期間は、平成 21 年 10 月から平成 26 年 10 月まで行うことを予定しています。そのため、前述の研究体制及び研究内容で、以下に示す本研究成果の河川堤防への展開を図るべく、研究を進めています。

本研究成果の河川堤防への展開

- ◇ 堤防に多様な在来種が生育することで、身近な自然として、環境学習等の活動の場として、積極的に活用されることが期待できる。
- ◇ 秋の七草に代表されるように、在来植物は日本の風物詩であり、堤防が季節を感じる場として認知されるようになれば、市民参加による堤防づくりにもつながり得る。

EFGT 研究会 委員等名簿（アイウエオ順）

座長	根本 正之	東京農業大学地域環境科学部造園科学科 教授
	小笠原 勝	宇都宮大学雑草科学研究センター 教授
	佐々木 寧	埼玉大学大学院理工学研究科 教授
	富永 達	京都大学大学院農学研究科 教授
	服部 保	兵庫県立大学自然・環境科学研究所 教授
	福田 正晴	河川環境管理財団 技術参与
	山田 晋	東京大学大学院 農学生命科学研究科附属生態調和農学機構 助教
オブザーバー	小俣 篤	国土交通省河川局河川環境課 河川保全企画室長
	榎野 良明	国土交通省都市・地域整備局公園緑地・景観課 緑地環境室長
	服部 敦	国土技術政策総合研究所河川研究部 河川研究室長
事務局	(財)河川環境管理財団	研究第四部

(担当：研究第4部)

報告事項 1 (調査研究等)

1. 「第13回 河川環境研究会」の開催

第13回河川環境研究会として、平成22年6月18日の午後、埼玉大学大学院理工学研究科環境科学部門の浅枝隆教授を河川環境管理財団の会議室にお招きし、「河川植生の特性とそれによる改変作用が河川環境に与える影響」と題してご講演をいただきました。

講演内容の内容は以下のとおりです。

「植物は周辺の環境に合わせて形態を変化させるとともに、個々の植物の生育や群落の拡大に有利な環境を創生する。この特性は、洪水による攪乱が大きく、貧栄養な河川において植物が生育していくためには、極めて重要な機能でもある。河川植物の可塑性による様々な形態変化として、水生植物（抽水植物・沈水植物）による流体力軽減・底質改変の事例、砂州の植物（ツルヨシ・ヤナギ・ニセアカシア）による栄養塩類（窒素・リン）獲得戦略の事例、黒部川でのダム排砂後の河原植生の変化事例を紹介した。河川管理を行う上でこれらの河原植物の環境改善能力を考慮することが重要である。」

当財団内外含め約75名のご参加があり、講演内容について会場から多数の質問がありました。



(担当：研究第2部)

2. 「河川環境管理財団研究発表会」の開催

当財団の研究成果を広く周知するために研究発表会を毎年開催しています。今年は、7月22日砂防会館別館1階「淀・信濃」に於いて開催し、国土交通省職員、地方自治体職員、建設コンサルタント、大学関係者等210名が参加されました。今回の発表会は、昨年発表会時のアンケート結果を踏まえた運営（前年度に比べ終了時を20分早めたなど）により、質疑応答を含め充実したものとなりました。

また、中央大学理工学部山田正教授より、「水の安全保障」と題して講演をいただきました。



上記の財団本部の研究発表会に加え、今年もそれぞれの地域ニーズを併せた形で研究発表会を地方事務所がある札幌、名古屋、大阪で開催することとしています。詳しくは、「お知らせ・募集」コーナーをご覧ください。

(担当：企画調整部)

3. 「河川塾」の紹介

河川環境総合研究所長（山本晃一）による第6期河川塾初等科が、財団及び協力会社からの参加者（総勢16名）を塾生として6月に開講しました。

河川塾初等科では、河川に対する基礎的な知見の向上、河道特性及び河川環境特性を読み解く能力の向上を目的に、毎週月曜日に2時間の講義を行っています。また、学んだことを実地で確認するために、現地研修を実施予定です。

初等科卒業生有志による第4期河川塾高等科では、今後の河川管理における新たな課題として、「河道特性に及ぼす粘性土・軟岩の影響と河川技術」をテーマとして取り上げ、平成21年度および平成22年度前期で活動を実施してきました。活動の主な目的は、粘性土・軟岩への対応について理論化・技術化を試みることであり、現地実態調査や関連情報の収集・整理を行いました。

現在、成果のとりまとめを行っており、近日中に報告

書を公開予定です。また、7月22日に当財団の発表会において、成果の一部を発表しました。秋以降には、新たなテーマを設けて、第5期河川塾高等科としての活動を開始する予定です。



縦溝状の河床侵食跡



河食による河岸侵食跡

(担当：研究第3部)

4. 「研究アドバイザー委員会」の研究テーマ決定

中部地方の河川を主体とした調査・研究事業の一環

として昨年度発足した研究アドバイザー委員会の、平成22年度研究テーマが平成22年5月28日の委員会において選定されました。

■研究テーマ：「東海地域における短時間強雨の雨域特性解析」

■研究グループ：

名古屋工業大学 庄 建治朗 助教授
金沢大学 谷口 健司 助教授

今後は、選定された研究内容について、研究グループと当財団名古屋事務所が連携し、研究アドバイザー委員会の指導・助言を受けつつ研究を進めることになります。

(担当：名古屋事務所)

5. 国土交通省地方整備局優良工事等表彰

平成21年度当財団が受託した次の業務が優良業務及び優秀技術者表彰を受賞しました。

□優良業務

表彰区分	業務名
荒川下流河川事務所長	平成21年度浄化導水事業改善効果検討業務

□優秀技術者

表彰区分	業務名	管理技術者
荒川下流河川事務所長	平成21年度浄化導水事業改善効果検討業務	山田 政雄

(担当：総務部)

報告事項 2 (河川環境学習関係)

1. 「世界子ども水フォーラム・フォローアップ in北海道 2010」を開催

今回で8回目となります「世界子ども水フォーラム・フォローアップ」が、「北海道立洞爺少年自然の家（ネイパル洞爺）」を主会場として8月2日(月)～8月4日(水)の3日間開催されました。

全国からの応募作文により選ばれた、中高生39名が、大学生によるファシリテーターなど運営スタッフ14名のサポートにより、「水による災害」「安全な川での体験活動」など水に関する6つのテーマ毎に分科会で話し合いました。

今回の開催地である北海道は過去参加者アンケートの

中で常に開催希望地第一位の地域であり、過去参加者にとって念願の開催地であることから、開催地ならではの「水」を体感できるように、2日目の午前中は洞爺湖においてEボートとカナディアンカヌー、カヤックを使った体験活動（「安全講習」）を行いました。

バイエルンの風カヌー学校校長の鳥畑博嗣氏をはじめプロのサポートの方々やネイパル洞爺のスタッフの方の協力により、普段では体験できない活動となりました。

1日目は少し緊張して自分の意見を上手く伝えられなかった参加者も、体験活動後はどんどん積極的になっていったようです。

最終日の全体発表会は新千歳空港内の会議室に場所を変え、それぞれ分科会で話し合った内容について、授業

形式で他の参加者に質問をしたり、劇を取り入れたりなど、2日間で話し合った内容をわかりやすくとも個人的な発表を行い、実行委員の方々からも多大なる評価をいただきました。

中学生、高校生の参加者にとって、全国から同じ目的を持つ仲間と出迎え、全国の様々な活動を知り、年齢に関係なく意見交換を行える空間がこの大会の魅力とこのことです。今回の出会いを大切に、今後、地域での活動へ繋げてもらいたいです。



洞爺湖での体験活動



分科会の様子



「全体発表会」発表の様子

(担当：研究第1部河川環境教育班)

2. 「水に関する環境教育プログラム 指導者研修会」の開催報告

米国で開発された「プロジェクト WET」は学校等の教育関係者向けの水に関する環境教育プログラムであり、水の循環や水質、水と社会、水の物理的性質等多岐にわたる事象を、身体を動かしながら学ぶツールとして日本国内でも普及されつつあり当財団がその日本事務局

を務めています。

8月19日(木)～20日(金)に当財団主催としては初めてとなるプロジェクト WET の教員向け指導者養成講習会を開催しました。

昨年度プロジェクト WET のプログラムを日本の学習指導要領と照らし合わせ、学校教育現場で更にプロジェクト WET のアクティビティ(活動)を実施しやすくなるようにガイドブックの改訂や事例集の作成等を行ってきました。それらの実績を踏まえ、実際に学校現場でプロジェクト WET を導入し、理科や社会といった教科で実施するためにはどのような工夫があるか等について、現役の学校教員等でプロジェクト WET を活用していただいている指導者の方々に講師に招き、意見交換を行いながら2日間のプログラムを進めました。

東洋大学文学部教育学科教授の寺木先生からは「学校における環境教育・環境学習の重要性について」ご講演いただき、平成23年度から小学校にて、平成24年度から中学校にて全面実施される新しい学習指導要領では、理科や社会だけでなく家庭や道徳といった教科でも、今後さらに子どもたちの興味・関心を重視し、学ぶ意欲を高めながら理解を深める指導が求められることから、このプロジェクト WET のような体験型学習プログラムの有効性が高いことをお話いただきました。

また、北海道滝上町立滝上中学校教諭の富山先生からはプロジェクト WET のアクティビティ「青い惑星」・「驚異の旅」・「大海の一滴」を中学校理科の単元「天気とその変化」で行った際の事例や、アクティビティ「渴いた植物」を用いた実験をご紹介いただきました。

社会科の事例としては、岡山県赤磐市立山陽小学校教諭の岸本先生からアクティビティ「塵もつもれば」、「継ぎ合せよう」を小学校社会科の教科書との関連性を踏まえて実践していただきました。

21名の参加者はグループに分かれ、それぞれ担当するアクティビティと学習指導要領のどの単元とを関連させながら授業で行うことを想定して実践し、体験型の教育プログラムの指導者としてトレーニングを行っていただきました。

富山先生や岸本先生からは「教科書では1ページで説明が終わってしまうような事柄も、こういったツールを使うことでより深く教えることができる。教科書で学んだ先の興味関心をもっともっと伸ばしてあげたいと思ってこういった活動を行っている。」といったコメントがあり、会場からもプロジェクト WET を今後さらに学校で実践している事例の収集や実績の積み上げが大事といった意見をいただきました。

当財団では今後も学校現場で実践することができる川や水についての教材の開発や普及展開に力を入れ、教育現場における活動の質の向上、水環境学習のより一層の推進に資するよう活動を行ってまいります。



寺木先生の講演



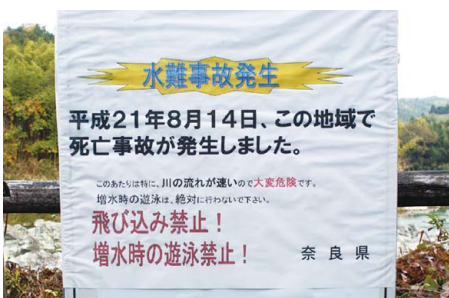
岸本先生の実践事例の紹介



富山先生の実践事例の紹介

(担当：研究第1部河川環境教育班)

発生年月	事故概要
2004/07/	河川敷でキャンプの男性、カブトムシを捕ろうとして崖から川に転落
2008/08/	バーベキュー後、川に立ち入った43歳男性、流され行方不明
2009/08/	祖父母と川遊びをしていた小学生3人が流された。2人は救助
2009/08/	増水した川で同僚らと泳いでいた男性が流された



吉野川の滝町地区での啓発看板

3. 「全国水難事故マップ」を更新

当財団の「子どもの水辺サポートセンター」では、平成14年の設立以降、全国の川や水辺での環境学習や体験活動の普及・促進を図るため、さまざまな取り組みや支援を行っています。

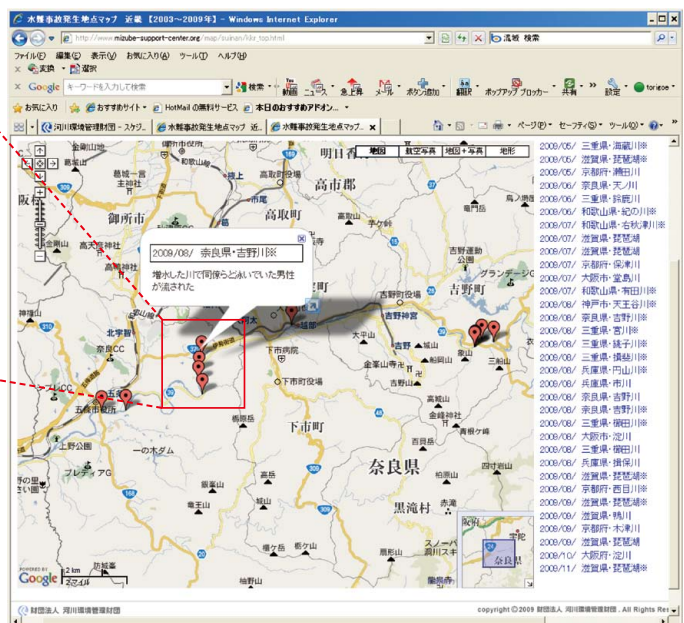
しかし、川や水辺には内在するさまざまな危険があり、安全を最優先し楽しく遊び・学ぶための取り組みが不可欠となります。そこで、毎年、全国の川で発生している水難事故事例を収集・分析し、水難事故を防ぎ安全な河川利用に向けた啓発方策の検討に資するため、財団独自に平成15年から全国の河川で発生した水難事故事例を、新聞記事やインターネットニュース情報から把握してきました。

昨年の7月に、平成15年から20年の6年間に収集した事例約600件の事故発生箇所と事故概要を整理し、グーグルマップを活用し「全国水難事故マップ」として、子どもの水辺サポートセンターのホームページで公表しました。

公表後、大きな反響を呼び、NHKなどのマスコミにも取り上げられ、川での水難事故防止に向けた取り組みにつながったのではないかと期待しています。

本年も、平成21年に収集した約170件の事故事例を追加し、約770件の水難事故データを表示した「全国水難事故マップ」を、7月はじめの「河川水難事故防止週間」に合わせ、更新しました。

全国水難事故マップへは、下記にアクセスしてください。
<http://www.mizube-support-center.org/map/suinan/index.html>



(担当：研究第1部河川環境教育班)

4. 「川に学ぶ体験活動協議会(RAC) 初級指導者(リーダー)養成講座」を開催

河川や水辺における環境学習や体験活動について、安全に楽しく取り組むための指導者養成を目的に「RAC 初級指導者(リーダー)養成講座」を7月17日～19日に開催しました。

講座は北海道内から11名が参加し、豊平川を舞台に3日間行われました。

修了者にはRACリーダーとしての登録手続きを経て、川の指導者として河川や水辺での活躍が期待されます。



(担当：北海道事務所)

5. 水辺共生体験館「川とカッパの探検ツアー 2010夏」 —川の危険を学び、川遊びで大はしゃぎ!—

名古屋事務所が運営委託を受けている水辺共生体験館(岐阜県各務原市)で「川とカッパの探検ツアー 2010夏」(第1回目)を8月7日に開催し、一般公募により応募のあった親子20人が参加されました。

このイベントでは、水辺共生体験館の近隣を流れる新境川(木曾川支川)をメイン会場として、スローロープを用いた安全講習、PFDを着用した川流れ体験、河川敷の清掃活動を通じて、川での安全な遊び方を学んでいただきました。

なお、2回目は9月4日に実施しています。



(担当：名古屋事務所)

公園・施設管理コーナー

1. 第91回 淀川の自然を楽しむ会 (干潟を楽しもう)

「干潟を楽しもう」をテーマに7月25日(日)に淀川河川公園、十三野草地区で第91回淀川の自然を楽しむ会を開催しました(主催：国土交通省 共催：当財団)。

午前中は、水道記念館を見学し、午後は、十三干潟に入り、シジミ採りや汽水域の水生生物の観察を行いました。



(担当：大阪事務所)

2. 淀川三川ふれあい交流 第2回七夕まつり

京都市八幡駅すぐの淀川河川公園、背割堤地区で旧暦の七夕(8月7日(土)～9日(月))に開催しました(主催：七夕まつり実行委員会 協力：当財団)。

8日(日)には、地域参加のイベントや、産物屋台、Eボート試乗体験があり多くの方で賑わいました。会期中は七夕飾りや鯉のぼりが立ち並び、夕刻には桜の並木道に灯籠が点され、日頃はできない夜の散歩を楽しんでいただきました。



(担当：大阪事務所)

河川整備基金コーナー

1. 「平成 23 年度河川整備基金助成事業」の募集

募集開始：平成 22 年 10 月 1 日

募集締切：平成 22 年 11 月 30 日 18 時

上記期間を過ぎると受付けることができませんので、ご注意ください。

なお、申請は全て電子メールでお願いします。

申請様式等の詳細につきましては、9 月下旬に当財団のホームページに掲載する予定です。

問い合わせ先：研究第一部 矢野、橋本、松浦、清水
(担当：研究第 1 部基金班)

2. 平成 22 年度河川技術研修会の実施

平成 17 年度から毎年実施している各地方における河川技術者研修会が、下記のとおり開催されますのでご案内いたします。

詳細は、各地方からご案内します。

北海道河川技術者研修会

テーマ これからの河川管理

期 日 平成 22 年 11 月 9 日～10 日

会 場 札幌市教育文化会館(札幌市中央区北 1 条西 13 丁目)

近畿河川技術者研修会

テーマ 地球温暖化に伴う気候変化への対応

期 日 平成 23 年 1 月 20 日～21 日

会 場 大阪市内

中国河川技術者研修会

テーマ 調整中

期 日 平成 23 年 2 月 2 日～3 日

会 場 広島市内

四国河川技術者研修会

テーマ これからの河川管理を考える

期 日 平成 22 年 11 月 29 日～30 日

会 場 高松市サンポートホール

お知らせ・募集

1. (財) 河川環境管理財団地方事務所研究発表会の開催案内

地域ニーズを踏まえた形で研究成果を広く周知するため、地方事務所がある札幌、名古屋、大阪において下記のとおり地方事務所研究発表会の開催を予定していますのでお知らせします。

北海道事務所研究発表会

財団の主要業務の一つである「研究成果の社会還元」に基づき、河川整備基金助成事業成果及び財団の研究成果の中から、北海道地方に関連の深いテーマをプログラムとし、3 回目の「研究発表会」を下記の通り開催します。

皆様多数のご参加をお待ちしております。

日 時：平成 22 年 11 月 25 日(木) 13:00～17:30

会 場：札幌エルプラザ 3 階ホール

札幌市北区北 8 条西 3 丁目

TEL 011-728-1222

最寄駅：JR 札幌駅北口から徒歩 3 分

定 員：200 名(参加費無料)

主 催：(財)河川環境管理財団 北海道事務所

問い合わせ先：北海道事務所 及川・岩館・水谷・小柳

TEL 011-261-7951

(担当：北海道事務所)

名古屋事務所研究発表会

河川整備基金助成事業研究成果及び財団の研究成果の中で、中部地方に関連の深いテーマで構成した第 4 回「名古屋研究発表会」を下記のとおり開催します。

研究者、行政関係者、技術者さらには学生、市民の方など幅広い層からのご参加をお待ちしております。

日 時：平成 22 年 11 月 16 日(火) 13:00～17:30

会 場：名古屋栄ガスビル 5 階「ガスホール」

名古屋市中区栄 3-15-33

TEL 052-732-3211

最寄駅：地下鉄(東山線・名城線)「栄」駅 サカエチカ 6 番出口徒歩 3 分

地下鉄(名城線)「矢場町」駅 6 番出口徒歩 2 分

定 員：150 名(参加費無料)

主 催：(財)河川環境管理財団 名古屋事務所

問い合わせ先：名古屋事務所 田代

TEL 052-565-1976

(担当：名古屋事務所)

近畿事務所研究発表会

河川整備基金助成事業成果及び財団の研究成果の中から、近畿地方に関連の深い成果を 1 つのプログラムとして構成した発表会を開催します。多数の皆様のご参加をお待ちしております。

日 時：平成 22 年 12 月 10 日(金) 10:00～17:00

(予定)

会場：大阪マーチャндаイズ・マートビル（OMMビル）2階
大阪市中央区大手前 1-7-31

最寄駅：京阪電車「天満橋」駅東口、地下鉄谷町線「天満橋」駅北改札口から OMM 地下 2 階に連絡口

定員：150 名（参加費無料）

主催：（財）河川環境管理財団 近畿事務所

問い合わせ先：近畿事務所 青木・瀬戸口

TEL 06-6942-2310

（担当：近畿事務所）

2. 「第 17 回河川整備基金助成事業成果発表会」のお知らせ

この発表会は、前年度の助成事業成果報告の中から、助成事業評価委員会で「成果を広く周知し活用を図っていくべきもの」と評価されたものについて、成果の社会還元を目的に毎年開催しているものです。

発表会では、現地における研究者等の最新の研究成果が発表され、毎回活発な意見交換が行われていますので、ご参加下さいますようご案内申し上げます。

日時：平成22年10月27日（水）13:00～10月28日（木）9:30～

会場：発明会館

港区虎ノ門 2-9-14

最寄駅：虎ノ門駅（東京メトロ銀座線）3番出口徒歩5分

霞ヶ関駅（東京メトロ丸の内線、日比谷線、千代田線）A13番出口徒歩13分

主催：（財）河川環境管理財団

参加費：無料

（担当：研究第1部基金班）

3. 「川に学ぶ全国事例発表会」の開催

「子どもの水辺サポートセンター」では、子どもたちの水辺での体験活動を推進するために、市民団体の方々、教育関係者、河川管理者等による活動を支援しています。その一環として、小・中・高等学校や市民団体等が実施している河川体験活動の事例発表会を毎年開催しており、今回で9回目となります。

発表会では、水辺を活かした体験活動に取り組んでいる先生、市民団体からの事例紹介や意見交換を行います。日頃、皆さんが感じている課題の解決と参加者間の交流の場となりますので、是非ご参加ください。

日時：平成23年1月28日（金）10:00～17:00

会場：（財）河川環境管理財団 3F 会議室

中央区日本橋小伝馬町 11-9

最寄駅：小伝馬町駅（地下鉄日比谷線）徒歩1分

主催：（財）河川環境管理財団 子どもの水辺サポートセンター

参加費：無料

（担当：研究第1部河川環境教育班）

4. 「プロジェクトWETファシリテーター講習会」の開催予定

プロジェクトWET (Water Education for Teachers) は、子どもたちが水について楽しく学び、考えられるようにアメリカで開発された教育プログラムで、平成15年度に当財団が日本国内での普及展開のライセンスを結び、それ以降、プロジェクトWET ジャパンとして子どもたちの教師となるエデュケーターならびにエデュケーターを養成するファシリテーターの講習を実施してきました。

この内、ファシリテーター養成講習会は、プロジェクトWET ジャパンが直接開催し、これまでに8回開催し、197名のファシリテーターが全国で活動しています。

本年度は、名古屋と東京で2回開催する予定で準備を進めています。

その概要は下記のとおりとなります。なお、詳細は、プロジェクトWET ジャパンのホームページをご覧ください。

◆第9回ファシリテーター講習会（名古屋会場）

・日時：平成22年10月2日（土）～3日（日）2日間

・時間：（10/2）11:00～19:30

（10/3）10:00～16:30

・会場：名城大学名駅サテライト（愛知県名古屋市）

・定員：20名程度

◆第10回ファシリテーター講習会（東京会場）

・日時：平成23年1月15日（土）～16日（日）2日間

・時間：（1/15）10:00～18:30

（1/16）10:00～16:30

・会場：（財）河川環境管理財団 会議室（東京都中央区）

・定員：20名程度



平成21年度第8回ファシリテーター講習会の様子

（担当：研究第1部河川環境教育班）

5. 平成22年度「川に学ぶ体験活動全国大会」の開催予定

「川に学ぶ」社会をめざしての取り組みの一環として、NPO法人川に学ぶ体験活動協議会（通称：RAC）が主体となり、毎年度開催している「川に学ぶ体験活動全国大会」が節目となる10回目を迎える本年度は、鹿児島県薩摩川内市で開催されます。

毎年、川での環境学習や体験活動を実践している全国の市民団体や学校ならびに河川管理者や行政関係者が一同に会し、日頃の活動や今後の展開に向けた情報交換や意見交換を行い、それぞれの河川や地域において「川に学ぶ」社会の再構築をめざします。

なお、去年は、広島県広島市で開催され、全国から約270名が参加しました。

「第10回川に学ぶ体験活動全国大会 in かごんま」の開催概要は、下記のとおりです。

- ・日 時：平成22年10月9日（土）～11日（月）
- ・場 所：鹿児島純心女子大学「江角記念ホール」他



昨年度開催の「第9回川に学ぶ体験活動全国大会 in ひろしま」での「防災」をテーマにした分科会

（担当：研究第1部河川環境教育班）

6. 「川を活かした体験型学習プログラム集（仮称）」出版予定

当財団の「子どもの水辺サポートセンター」は、全国の学校や市民団体等が川や水辺を活用した環境学習や体験活動を促進するためのさまざまな取り組みや支援を行ってきています。この中で、川を活かした環境学習や体験活動への関心があるものの、安全対策や実践方法がわからないとの声が多く寄せられたことから、特に小学生を対象として、小学校の総合的な学習の時間等で活用できる参考図書として「川を活かした体験型学習プログラム集（仮称）」の出版に向けた作業を進めてまいりました。

現在、最終校正作業の段階となり、実践事例を提供していただいた学校等へ内容の確認手続きを行った後印刷に入り、年内には出版・販売できるよう進めております。

（担当：研究第1部河川環境教育班）

7. 「水辺の安全ハンドブック（改訂版）」出版予定

当財団では、川や水辺を活かした環境教育の促進に向け、さまざまな取り組みを行ってまいりましたが、その中で、安全な河川利用を常に最優先のテーマとして進めてまいりました。

平成11年の玄倉川での水難事故を契機とし、多くの河川利用者に対し川に内在するさまざまな危険を認識し、必要な準備や心構えについてまとめた「水辺の安全ハンドブック～川を知る。川を楽しむ。～」を作成し、全国に配布しました。

平成16年度に一部改訂し増刷した。さらに、平成19年度に全面的な改訂を行い、水難事故防止と安全な河川利用の基礎的なマニュアルとして活用され、在庫がなくなってきたことから、今回、改訂作業を進めているところです。

（担当：研究第1部河川環境教育班）

編集
発行



財団法人 河川環境管理財団

編集事務局 企画調整部 担当：朝堀 E-mail:asahori-ya@kasen.or.jp
江幡 E-mail:ebata-s@kasen.or.jp

本 部 〒103-0001
東京都中央区日本橋小伝馬町11-9
住友生命日本橋小伝馬町ビル(2F,3F)
<http://www.kasen.or.jp/>
E-mail:info@kasen.or.jp

総務部 TEL 03-5847-8301 FAX 03-5847-8308
企画調整部 TEL 03-5847-8302 FAX 03-5847-8308
研究第一部 TEL 03-5847-8303 FAX 03-5847-8309
研究第二部 TEL 03-5847-8304 FAX 03-5847-8309
研究第三部 TEL 03-5847-8305 FAX 03-5847-8310
研究第四部 TEL 03-5847-8306 FAX 03-5847-8310
東京事務所 TEL 03-5847-8306 FAX 03-5847-8310
子どもの水辺サポートセンター TEL 03-5847-8307 FAX 03-5847-8314
<http://www.mizube-support-center.org/>
E-mail:msc@mizube-support-center.org

北海道事務所 〒060-0061
札幌市中央区南一条西7丁目16-2(岩倉ビル)
TEL 011-261-7951 FAX 011-261-7953
<http://www.kasen.or.jp/hokkaido/>
E-mail:info-h@hk.kasen.or.jp

名古屋事務所 〒450-0002
名古屋市中村区名駅4-3-10
TEL 052-565-1976 FAX 052-571-8627
<http://www.kasen.or.jp/nagoya/>
E-mail:info-n@nagoya.kasen.or.jp

近畿事務所 〒540-6591
大阪市中央区大手前1-7-31(OMMビル13F)
TEL 06-6942-2310 FAX 06-6942-2118
E-mail:info-o@osaka.kasen.or.jp

大阪事務所 〒570-0096
大阪府守口市外島町4-18(守口フィットネスリゾート内)
TEL 06-6994-0006 FAX 06-6994-0095
<http://www2.kasen.or.jp/>
E-mail:kohen@osakaj.kasen.or.jp